

本坊本堂

歓喜院本坊本堂は、1197 年に、妻沼聖天山歓喜院の良応僧都であった、開祖斎藤実盛の息子が完成させました。本坊は、僧院長の住居として使用されています。

参拝者は、小さな池と装飾庭園がある境内を歩くことができます。本坊本堂には、昭和時代（1926～1989 年）に彫られた、前方の切妻と軒下の細かい彫刻があります。湾曲した切妻の下に、鳳凰に似た神話上の生き物、鸞（らん）に乗る隠とん者を描いた彫刻が施されています。この人物は、道教の不死身の神、ばいふく（冥府）だと考えられます。ばいふくは、不老不死の薬を飲んだ、漢王朝（紀元前 202～紀元後 220）時の中国の統治者の 1 人であったと言われています。そのすぐ下にあるのは、水瓶の中に誤って落ちた友だちを助けるため、大きな水瓶を割る子どもたちの様子が描かれた彫刻です。これは、危機においても冷静さを保つこと、そして、どんなに高価なものでも人の命には替えられないということを伝える中国の古い寓話です。本坊は、妻沼聖天山で毎年行われる春と秋の祭りの行列の開始地点で、聖天堂本殿から約 200 メートルの場所にあります。